

[古代東洋の美術展によせて]

## 蓮華装飾の香炉

### — 仏教と結びついた道教の博山炉 —

当館には「博山炉」と称される四点の香炉があります。その内三点は中国・漢時代、一点は隋～唐時代のもので、いずれも蓮の蕾のような形の香炉部（蓋と身より成る）を持ちながら、全体の形や素材の仕上げが異なっている点が面白く思われます。

この違いが何によって生じているのか——これが今日の本題です。

「博山」とはほぼ現在の山東省に当たる斉の国（紀元前7世紀～3世紀）で起った神仙信仰に端を発した、中国古代の神秘思想に由来します。仙人の棲むと考えられた三神山で、例えばその一つ蓬萊山は渤海湾に面した山東半島のはるか東方の海中にあると伝えられました。そこには不老不死の薬があり、不老不死の仙人が住み、人が近づくことが出来ないとされ、これは恐らく蜃気楼から生まれた伝説であろうと言われています。この神仙説は秦の始皇帝や漢の武帝に信ぜられ煉丹術も重んぜられるようになったと言われます。

この神仙説の修仙道と結びついたものに、同じように不老不死を願い、医学・薬学・科学・錬金術などを伴って神秘的な方術によって自ら真人（神人・仙人）となることを願った道教があります。道

教は北魏時代（386～535）に確立され、国家的な宗教となって仏教と対立もしました。

さて、以上の背景の下に、四つの香炉を見て行くことにしましょう。まず図1は金銅製で、蓋は神仙思想の理想郷博山を円錐形に象って山の重疊たる峰々を表し、峰の間や大きな透し彫りの孔から香が立ち昇るのですが、同時に峰々にも細線を刻んで、香煙を表しているように見えます。こうした不整形な孔や動めくような線刻が施された表現によって、中国古代工芸に共通するある種の不気味さを伴った神秘性が感じられます。炉身から美しい放物線を描いて下に大きく広がる台座は博山が位置する海を表しています。このような香炉が、神山を祭る儀式に用いられ、これは（他の3点も共に）それを真似た明器（墓の副葬品）として造られたと考えられます。

図2は、灰陶製で、図1のような金属製のものの代用品でもありますが、炉身の膨らみは増して特に愛らしい蓮の蕾のようです。軟体動物を思わせる形の透かし彫りは図1と同じですがより小さく、峰々は強い線刻によって分けられているに過ぎず、縦線や矢羽状の幾何学的な模様は施され、下方にも三

角文・菱形文などを一巡りさせて装飾の豊かさが見えます。炉身の側面にも蓮弁状の浅い線刻文があり、図1とは異なって、古代の怪異性から少し脱して、仏教の影響が見え始めたと言えます。仏教は既に前漢の哀帝の元寿元年（紀元前2年）に伝えられていたことが『魏略西戎伝』に記されています。脈よかな炉身を支える支柱は、それに相応しく太く短く、香炉全体を受ける盤から立ち上っています。『考古図』によれば、この盤は博山の存する海中を表すと共に「湯を貯え、潤気をして香を蒸さしめ」とあります。盤から立ち昇る湯気はさしずめ先述の蜃気楼に、炉から昇る香煙は山岳の雲気とも見立てられたのでしょうか？

図3は同じ漢時代でも緑釉が美しいものです。峰々は蓮弁状（仏教の影響？）に薄く切れ目を入れ、透き間を造っています。頂上には図2が神山の巖状の植物を表すのに対し、ここでは鳥（鳳凰？）を配し、理想郷、あるいは副葬品として魂を導く鳥（従って炉は魂の住み家）を示しているかも知れません。博山炉にはしばしば、仙人と共に動物や狩猟文を浮彫りしているもの（韓国の百済の故地から出土した例）があります。さて、図3は更に、峰の下方に図2の一部と似た幾何学文が見えます。支柱部は途中に節を設けるのが特徴的です。盤は図2と似て口縁を平たく、皿部に段を造る形式です。

さて、このような博山炉が道教の儀式に使われている様子が図6

から伺われます。これは北魏時代の道教像の台座部に像への香供養として表したもので、博山炉の形も独特ですが、参考になります。

そして図4は図5と同じくいよいよ仏教が完全に中国の宗教となり切った時代のもので、炉身は全くの蓮華、蓋は宝珠形の中に円形の唐草を組み合わせた宝珠唐草文の板を貼り重ね、頂上には宝珠形とも蓮華の蕾とも思われるもの、支柱には二頭の龍が巻き付いて（蟠龍）います。中国古代の空想の動物で仏教では池中から釈迦の蓮台を造り出したという龍が図4では海を表す盤から上昇しているのです。この香炉は白磁と龍、蓮華の組み合わせが神秘的で壮麗であり、博山炉が（蓮の蕾に似た形であったためか？）仏教の儀式に使われるようになったことを示しています。

（村田靖子）

図6 石造道教三尊像より 延昌4年(515)銘  
大阪市立美術館蔵



図5 緑釉蟠龍博山炉 唐時代 出光美術館蔵



図1 金銅博山炉 漢時代 大和文華館蔵



図2 灰陶博山炉 漢時代 大和文華館蔵



図3 緑釉博山炉 漢時代 大和文華館蔵



図4 白磁蟠龍博山炉 隋時代 大和文華館蔵

